中国海軍司令員の交代（抄訳）

環球網 20170120 16:49:00

阿部信行

（訳者コメント）

中国海軍司令員が交代しました。前司令員の呉勝利は定年退職とのことです。新司令員は南海艦隊司令員だった沈金龍です。艦隊司令員から直接海軍司令員に昇任するのは希なことであるようです。
「環球時報」は、緊張する南海海域での功績が認められたからであると推測しています。特に南海海域での米軍潜行機の捕獲とその後の処理が習近平の支持をうけたものと思われます。

[環球時報ー環球網報道　記者　郭媛丹]
中国海軍は官方情報を発表した。1 月 20 日午前、海軍司令員沈金龍は、海軍党委員会と機関を代表しアデン湾で護衛任務を遂行している将兵を慰問した、と。このことは、海軍司令員が交代したことを意味する。前海軍司令員呉勝利は海軍司令員を退任した。
”新海軍司令員は前南海艦隊司令員の沈金龍が引継いだ”。この情報は長年関心を持っていた者にとって驚きであった。

海軍の歴任司令員の中で、開国将領を除けば、艦隊司令員から直接海軍司令員に昇任した海軍将領は、沈金龍が初めてである。アナリストによると、これは、沈金龍が南海問題の紛糾時期に南海艦隊を指揮し、複雑かつ危機的な事件を何度も処理したことと関係がある、とのべた。

（生い立ちなど経歴は省略）

沈金龍の”破格の昇任”は初めての例ではない。この種の先例突破は、海軍政治委員の苗華にも見られる。前蘭州軍区政治委員の苗華は海軍政治委員に就任した。これ以前は、海軍政治委員の人選は、多くは海軍系統副大軍区級将領から抜擢された。苗華は陸軍の政工将領である。

このほか沈金龍が南海艦隊司令員を担任した期間、2016 年 7 月に中国海軍三大艦隊が南海で演習を行った。演習指揮員を担当した沈金龍は、「今回の演習は、全軍の実戦化訓練推進会議後に初めて行われる海軍の重要実兵実弾演習である。軍の指揮指導体制改革の成果を反映し、海軍が設計する戦争、訓練の思想を体現し、海上における実戦化訓練を推進しなければならない」と述べた。
また沈金龍が南海艦隊司令員を担任した期間、南海問題が激烈になった時期であった。南海海域の権益を守る最前線としての南海艦隊は責任が重かったが、

南海の戦備パトロールの常態化を実現し、同時に米国軍艦を含め、4 回にわたって行われた南海での”自由航行”に対処した。そのうち 3 回は、米国軍艦が我が主権を保有する島嶼の 12 海里内に進入した。中国軍艦は有効に識別し、査証し、追跡監視した。2016 年 12 月中旬、中国軍艦は初めて南海海域で米軍の無人潜行機を捕獲した。これは外界から中米間で”最も厳しい軍事対抗措置の一つ”と称賛された。

この行為は、明らかに中央軍事委員会、及び海軍総部の指導と決定の下に行われたものであるが、第一線の指揮員である沈金龍にとっては、海洋における危機の処理と対応について経験を積み重ねることになった。これらの最前線での闘争と実戦経験は、今後外洋作戦を担う海軍指導者にとっても、海軍を国際性のある軍種に発展させる上でも有利である。

公開された履歴によると、沈金龍は庶民の出身で、一兵卒から逐次昇任し、様々な職務に就いた経験がある。北海艦隊及び南海艦隊だけでなく、海軍院校勤務も長かった。沈金龍と接触したことのある人々は、”環球時報”に対して、沈金龍は極めて気さくで、威張らない人であると、述べた。沈金龍は一般の兵士に気を遣い、特に住宅や生活にも配慮するという。

沈金龍は主に大連艦艇学院、海軍指揮学院に勤務し、学習を熱愛し、学問研究の姿勢が厳しい学術型の指揮幹部である。
（中略）

十八大以来、学術型の官員が重用される趨勢が顕著である。
新任の海軍司令員は、今後、海軍の体外交流を強化するであろう。軍種間だけでなく、外国軍との交流もさらに強化するであろう。
（中略）

沈金龍は 2014 年 8 月、中国海軍艦艇を指揮し、米国ハワイに赴き、2014 年環太平洋軍事演習（RIMPAC）に参加した。これは中国として初めての RIMPAC 参加であった。
演習終了後、沈金龍が率いる中国海軍艦艇は、米国サンディエゴに立ち寄り、5 日間の友好訪問を行った。その間、米国第 3 艦隊司令フロイド中将の家庭に招かれ、マハンの著作等の話題で親交を深めた。
（後略）

以上